

「洗礼者ヨハネと主イエス」

2015年06月15日

ルカによる福音書 7章23節～30節。「わたしにつまずかない人は幸いである。」ヨハネの使いが去ってから、イエスは群衆に向かってヨハネについて話し始められた。「あなたがたは何を見に荒れ野へ行ったのか。風にそよぐ葦か。では、何を見に行ったのか。しなやかな服を着た人か。華やかな衣を着て、ぜいたくに暮らす人なら宮殿にいる。では、何を見に行ったのか。預言者か。そうだ、言うておく。預言者以上の者である。『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、／あなたの前に道を準備させよう』／と書いてあるのは、この人のことだ。言うておくが、およそ女から生まれた者のうち、ヨハネより偉大な者はいない。しかし、神の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。」民衆は皆ヨハネの教えを聞き、徴税人さえもその洗礼を受け、神の正しさを認めた。しかし、ファリサイ派の人々や律法の専門家たちは、彼から洗礼を受けないで、自分に対する神の御心を拒んだ。

洗礼者ヨハネは苦しい獄中で主イエスを見失った。二人の弟子を遣わし、主イエスに「来るべき方（メシア）は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか」と問わせた。その問いに対し「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている」と、主イエスの到来によって、神の恵みと祝福の中、人々は自立して自分の人生を喜んで生きていますと答えられた。神の国は現実化していると語った訳である。

そして「わたしにつまずかない人は幸いである」と言われ、群衆に向かって話された。あなた方は何を見るために、ヨハネが立つ荒れ野に行ったのか。風にそよぐ葦か。あるいは、豪華な服を着た人か。贅沢に暮らす人なら宮殿にいる。そのようなものを見るために荒れ野に行ったのではないだろう。預言者を見るために行ったのではないか。そうだ。言うておくが、ヨハネは預言者以上の者である。そして、出エジプト記23章20節を引用し「『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、／あなたの前に道を準備させよう』／と書いてあるのは、この人のことだ」と言われた。ヨハネは神の使者として、神を鮮やかに現し、人々の心を神に向けさせ、主イエスの歩む道備えをなした。「およそ女から生まれた者のうち、ヨハネより偉大な者はいない」と、ヨハネの働きを最高に高く評価している。納得できる。「しかし、神の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である」とも言われた。神の国においても、小さい者と大きい者があるのであろうか。序列化は人間の管理社会が生み出したもので、神の国では序列はなく、横一列と思っているのだが。

差別と抑圧に苦しむ民衆は皆、ヨハネが語る真実な神を信じ、愛と正義を生きよという悔い改めの説教に感激し、洗礼を受けた。ローマの手先になってユダヤ人から徴税する徴税人は罪人と烙印され排斥されていたが、彼らもヨハネの宣教を受け入れた。しかし、自分の義を誇るファリサイ派の人々や律法学者たちはヨハネの宣教を拒否した。心の頑なさ、自ら神の御心を拒んだのである。愛と正義と平和の神を信じるのは、いつの時代も、生きることに苦悩している民衆である。恵まれた人々は神を見ず、隣人を捨て去る。主イエスは洗礼者ヨハネを預言者以上であると評価し、砕かれた心でヨハネを受け入れ、そして、私につまずかない者は幸いであると語っている。（続く）